

ローテーションモデル

典型的には1年目に基幹病院である谷野呉山病院をローテートし、急性期治療、児童思春期症例、依存症、認知症を含む幅広い症例を経験することで精神科医としての基本的な知識、精神療法や薬物療法を主体とする治療手技、心理検査などの検査手法を習得する。併せて精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深める。また包括型地域生活支援プログラム（ACT）を経験することで地域医療・地域連携において十分な経験が得られる。2年目には富山大学附属病院をローテートし、身体合併症症例、難治例、リエゾン症例なども幅広く経験するとともに、早期介入、生物学的検査、臨床研究への理解を深める。3年目には基幹病院である谷野呉山病院の希望により連携施設である総合病院精神科（富山県立中央病院、富山市民病院）単科精神科病院（北陸病院）を希望に応じて6カ月または1年ずつローテートし、急性期治療、司法精神医学、認知症なども幅広く経験する。なお、お希望により、2年目と3年目の研修先を入れ替えることができる。また精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深める。これら3年間のローテート順や期間については、本人の希望に応じて柔軟に対応する。連携施設での研修中はいずれも地域医療・地域連携において十分な経験が得られる。連携施設である富山大学附属病院での研修中は非常勤として週に2回程度（1回半日）、地域医療を行う精神科医療機関や精神科に関わる公的施設のいずれかに赴き、基幹施設の指導医による指導の下で地域医療や福祉への理解を深める（いずれも富山県内）。